



# 県Pと県教委の連携・協力会議 1人1台端末など説明



佐賀県教育委員会と佐賀県PTA連合会との連携・協力会議が11月18日、佐賀市の「グラノデはがくれ」で開かれました。県教委から甲斐直美教育長や各課の課長ら19人、県PTLTは馬場将嘉会長や理事ら18人が出席し、1人1台端末の家庭学習での活用や部活動の地域移行など幅広い課題について意見を交わしました。

会議の冒頭、馬場会長が「県Pと県教委がお互いに補い合って、より良い教育環境づくりができる」とあいさつ。甲斐教育長が「子どもを真ん中にしてどうやっていけばいいのか、忌憚のない会議にしてみたい」と意欲を見せました。

意見交換では、県教委の担当者が「1人1台端末を活用した家庭学習」や「部活動の地域移行等」について、取り組み

## チーム担任制にも言及

た。県教委からは甲斐直美教育長や各課の課長ら19人、県PTLTは馬場将嘉会長や理事ら18人が出席し、1人1台端末の家庭学習での活用や部活動の地域移行など幅広い課題について意見を交わしました。

会議の冒頭、馬場会長が「県Pと県教委がお互いに補い合って、より良い教育環境づくりができる」とあいさつ。甲斐教育長が「子どもを真ん中にしてどうやっていけばいいのか、忌憚のない会議にしてみたい」と意欲を見せました。

意見交換では、県教委の担当者が「1人1台端末を活用した家庭学習」や「部活動の地域移行等」について、取り組み

### 参加者の感想

#### 「PTAの力」を頼って

「一人一台端末を活用した家庭学習」に関しては、県教委から示された佐賀県の子供たちの家庭学習の実態に危機感を覚えた。家庭学習の充実は、学力向上のみならず、生涯学習の姿勢を養い、自己決定力を高める効果もある。家庭学習の習慣化に向け、親として積極的に「声かけ」や「関わり」を行う必要がある。

「部活動の地域移行等」に関しては、多数ある選択肢のどれがベストなのかを考えることが必要。保護者の理解を得る過程で、必要に応じて市郡P連など「PTAの力」を頼っていただきたい。

「子供たちのための働き方改革」に関しては、県教委で導入が検討されている「チーム担任制」について、児童・生徒にも教員にも保護者にもメリットのある試みではないかと感じた。県P連は、教員の負担軽減を通じて、教育の質の向上を目指す「子供たちのための働き方改革」の推進に、引き続き積極的な役割を果たしていきたい。



県PTA連合会副会長  
長友篤志さん

全体会を担任する「チーム担任制」についての説明もあり、県教委は実施に向けて加配などを考えている「先進校を視察しても目立ったデメリットはない」と強調。来年度からモデル校で取り組みを始めることを明かし、「保護者への丁寧な説明が必要と思っていました」との認識も示しました。



## 九P長崎大会に5000人

第69回日本PTA九州ブロック研究大会長崎大会が10月26、27の両日、長崎市の「出島メッセ長崎」で開かれました。九州各县のPTA関係者約5千人が一つの会場に集い、時代に即した新しいPTAへの変革を目指し、活動の意義や理念を再確認しました。

大会は学びを実践へ集まろうで語り合おうでやつてみようで」をスローガンに掲げ、分科会と全体会を同じ会場で開催する方式を初めて採用しました。分科会では、提言発表をもとにグループ討議の時間が設けられ、参加者がそれぞれのPTA活動や異なる改善策を紹介し合い、互いに学び合う場とな

ました。全体会では放送作家の野々村友紀子さんが「強く生きるためのヒント—野々村友紀子が伝えたい人生で大事なこと—」の演題で記念講演しました。

(宮崎 葵)

## 互いに学び、理念など再確認

りました。

このうち第5分科会では、嬉野市の轟小PTAが「ふるさとを愛し、生き生きと学ぶ『轟っ子』を育むPTA活動～地域コミュニティとの連携を通して～」の演題で提言。地域の人たちが「学校のために、子供たちのために」と多くの活動に参加している様子を紹介し、その活動を通じて子供も大人もさまざま考え方や思いを育み、ふるさと愛が循環している様子を伝えました。

村友紀子さんは「強く生きるためのヒント—野々村友紀子が伝えたい人生で大事なこと—」の演題で記念講演しました。

### 受賞おめでとうございます

#### 九州ブロックPTA協議会表彰

##### 団体表彰

鳥栖市立鳥栖中学校PTA  
神埼市立仁比山小学校PTA  
佐賀市城南ブロックPTA  
唐津市立大良小学校育友会  
鹿島市立古枝小学校PTA  
嬉野市立轟小学校PTA

##### 個人表彰

園木 勝彦 横木 剛 田中 慎也  
野中 加恵子 廣知徳 麻生 尚平  
友田 香将雄 森 由香理 時川 さゆり

##### 感謝状

江田 明弘 西 靖幸 菱岡 智美

桃山の風、  
佐賀に吹く

# 桃山三都

—京・大坂と肥前名護屋—

2024  
12.6 金

2025  
1.29 水

（佐賀新聞創刊140周年記念）

開館時間 | 9:30~18:00

休館日 | 毎週月曜

（祝日の場合は翌火曜）

12/29(日)~1/1(水・祝)

小学生  
観覧無料！

/主催 / 佐賀新聞社、佐賀県立美術館

/特別協賛 / 木下グループ 草苑 冠婚葬祭セリエンス ホテルマリターレ創世

問い合わせ 佐賀新聞プランニング ☎ 0952(28)2151

（平日9:30~17:30）



[公式HP]



[公式X]

## 佐賀県立美術館で好評開催中！

### 豊

臣秀吉が天下統一を成し遂げた桃山時代。京都に聚楽第や伏見城、大坂に大坂城を築き都市を整備。そして文禄・慶長の役の出兵拠点として、肥前に名護屋城を築きます。名だたる武将が名護屋に集い、その壮大さは「城石垣は京都にも勝り」「天守なども聚楽第にも勝る」と言われるほどでした。

本展では京、大坂、そして肥前名護屋を加えた三都市を《桃山三都》と位置づけ、秀吉ゆかりの資料や桃山時代を生きた作家らの名品を展示。また名護屋城博物館の「黄金の茶室」を初めて館外に移設し公開します。さまざまな作品を通して《桃山三都》をご体感ください。

観覧料 当日一般 1,400円 高校生以下 無料

※ 当日券は展覧会会場ほか各プレイヤーで販売

※ 障害者手帳または特定医療費（指定難病）受給者証所持者と介助者1名は無料

※ 佐賀新聞Begin会員、佐賀県立博物館・美術館メール会員、20名以上の団体は前売一般価格

※ 小学生以下は要保護者同伴

## 市郡連会長に聞く

県内に13ある市・郡・地区PTAの会長を順番に紹介します。それぞれの地区の自慢や課題、今後の展望について語ってもらいます。

第24回

嬉野藤津 西山 嘉克 会長

## にしやま・よしかつ

滋賀県出身。静岡大学卒業後、書の作品を書きながら世界中を旅し、20年間で延べ8万人に作品を届けてきた。佐賀県の人々や風土、文化に心を奪われ、15年前に嬉野市に定住を決意し、アトリエを構えた。6人の子供たちと一緒に成長できるようPTA活動に奮闘中。趣味は「男の料理」。所属単Pは吉田小中。43歳。



## 活動を通じて“得るもの”も

## ◆PTAに関わったきっかけと入った後の感想は?

嬉野藤津連合会会長の輪番が回ってきて、推薦を頂きました。「地域の恩返しになるのでは」と思い、手を挙げたのがPTAに関わったきっかけです。最初は分からぬ事ばかりで戸惑いましたが、今は「いろんな方々の支えがあって子供たちが育っている」ことが分かりました。

## ◆嬉野藤津のいいところを教えてください。

人が穏やかで、人と人の繋がりを大切にしている方が多いと思います。普段から地域・先生・教育委員会の繋がりが自然とできているところも良いなと思います。またこの地域は全国的に有名な温泉やお茶があり、山と海の恵みが豊富で、この地域ならではの面白味があります。

## ◆嬉野藤津の課題はありますか?

「次世代へのバトン」が課題です。コロナ禍でPTA活動が十分にできない年が続いたため、会員さん同士の繋がりが希薄になり、意識共有や情報共有の機会が減りました。この地区には14の単Pがありますが、引継ぎがうまくできている単Pもあれば、不十分なままでとりあえず業務をこなす単Pもあります。特に後者は、子供や会員さんが抱える課題や問題が表面化しにくく、代が変わるとたびにその傾向が強くなるのではないかと懸念しています。

## ◆次世代の役員さんへアドバイスをお願いします。

PTAをやられている方々にはいろんな温度差があると思いますが、私たちが学んでいく姿勢を子供たちに見せることで、今まで以上に子育てが楽しくなるし、地域や先生を見る目が変わり「得るもの」もあります。

(聞き手・山口 智恵子)



## プレー楽しみ、交流深める

ボッチャを体験しながら交流を深める参加者。日ごろの仕事や家業が11月8日、佐賀市立体育馆で開かれました。各市郡連から母親委員ら91人が集まり、10月に県内各地で開催された全国障害者スポーツ大会の正式競技である「ボッチャ」を体験しながら交流を深めました。

ボッチャとは、最初に投げた白い目標球に赤・青それぞれ6球ずつのボールをいかに近づけるかを競うパラスポーツで世界的に人気があります。この日は県パラスポーツ協会指導員のもと、参加者をランダムに12チームに分けてプレーしました。

ボッチャが投げれず苦戦しましたが、みんなで作戦を立てたり、合間に子育ての話をしたり、最後まで楽しめました」と笑顔。末永委員長は「交流事業での楽しかった気持ちを、今後の子育てやPTA活動に生かしてほしい」と話しました。



## 受賞おめでとうございます



## 日P表彰

## 団体表彰

佐賀市立城東中学校PTA  
城西中学校PTA  
佐賀市立川副ブロックPTA

## 個人表彰

江田 明弘 西 靖幸 菱岡 智美

# 新聞とウェブサイトで取り組みいろいろ

## 佐賀新聞社の取り組み

佐賀新聞では、学校や家庭で活用できる教育コンテンツを発信しています。

はがき新聞や子どもたちの作品などのコンテンツを中心に、佐賀の子どもたちの活躍を紹介し、親子で、三世代で楽しめる紙面をお届けします。NIEワークシートや、「クロスワードパズル」「七つの違い」といったクイズランダも掲載しています。

ICT教育が進む学校現場でさらに活用してもらえるように、佐賀新聞のウェブサイトでもさまざまなコンテンツを提供しています。

## 子ども佐賀新聞(毎週火曜日掲載)



子ども佐賀新聞やワークシートがダウンロードできる特集サイトはこちら



佐賀新聞社のウェブサイトで、新聞記事をもとに随时、教材を提供しています。ぜひ学校の授業でご利用ください。

佐賀新聞 NIE

検索

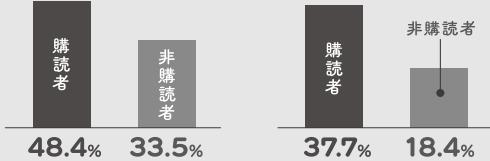
## 学力アップに!

新聞で学力、脳力アップ!!  
さあ、新聞を開こう!

## 新聞で好奇心を育てる

新聞を開いて政治や社会問題、スポーツに芸能など豊富な記事を読むことで、好奇心が旺盛になり、主体的に学ぶ姿勢が育まれます。

## ●子どもが主体的に勉強するか ●子どもが作文に苦手意識がない

●普段の親子の会話も子どもに好影響  
親子の会話で情報交換し、情報の整理力や表現力、語彙力を高めます。

## ●新聞を読む子と読まない子の正答率の差

小学6年生国語Aの場合	7.7ポイント	小学6年生算数Bの場合	13.6ポイント
総合読解力の場合	38ポイント	新規登録	10.7ポイント

(出典:新聞科学研究所)



## 子育て・親育ち うちの家訓

子育てのヒントになるような、それぞれの「家訓」を紹介します。

### 高田家の家訓

「親の背を見て子は育つ」という日本のことわざを一度は耳にしたことがあると思います。「親が子どもに口で言つても行動が伴わなければ意味がない」ということで使われることもあります。私にとっては「耳の痛いことわざ」となっています。

確かに息子は、彼なりに私たち親の行動をよく見て育つており、影響を与えていること

### 出会った人にはあいさつを

我が家には家訓はありません。ただ子供たちには「家を一歩出たら、出会った人にあいさつをするように」と言っています。あいさつすることによって、どこの家の子供か知つてもらい、何かあった時には助けてもらえると思うからです。

私の学生のころと比べると少子化が進み子供たちが登

高田 豊(川登中P)

校する時も少人数です。昔と違つて今は、田舎だからと安心できるとは限りません。ご近所や地域とつながりを大切にしながら、これからも私が育つた町が変わらないように頑張っていきたいと思います。子供たちもこの気持ちを忘れないので大きくなつてほしいです。

「親の背を見て子は育つ」という日本のことわざを一度は耳にしたことがあると思います。「親が子どもに口で言つても行動が伴わなければ意味がない」ということで使われることもあります。私にとっては「耳の痛いことわざ」となっています。

我が家では、親の背中の先にある選択する力を養うことを家訓としています。自分の力で人生を力強く、そして楽しく生きてほしいと願っています。

### 村岡家の家訓

## 親の背中の先にあるもの

村岡 晋一郎(砥川小P)



## 父親日記

佐賀新聞社の記者がつづる  
教育や子育てをテーマにしたコラムです

### vol.19 水色のお守り

妻が50歳の誕生日を迎えた。1人娘はこれまで両親の誕生日に「肩たき券」や「アイスとくるね券」をくれていた。小6の娘は今回、お小遣いでお守りをプレゼントした。

校区にある小さな神社を1人で訪ね、「お母さんにあげます。長生きしそうなお守りありますか」と聞いたそうだ。すると宮司らしき男性は「お母さん、病気なの?」と聞き返したらしく。このシチュエーションなら、病床の娘は打ち消したが、それでも男性は「大事なお金だから」と、

700円のお守りを300円に。中学生。同じようにお祝いしてくれるなら、今回のお礼も兼ねて「大人料金」でお守りを。

(佐賀新聞社  
宮崎勝)

田町の両地区にまたがつており、中学校進学時に子供たちは塩田中と嬉野中に別れる珍しい学校です。一方で校区での人と人の繋がりは深く、以前から地域の皆さんと小学校で合同運動会を開催してきました。

しかし、新型コロナウイルス

感染症等の影響で、集まる機会が激減し、今の中学生も校区運動会は経験していない中、今年6年ぶりの大草野小学校校区運動会が開催されました。

先生方や地域の皆さんはじ

め多くの方に事前の会議から準備、運営にご尽力いただきま

した。プログラムや運営をどの

ようくに進めるか不安な部分も多

くありました。事前会議の際

に、「大草野には協力できんてい

う人はおらんでしょう!」とい

う意見がありました。その言葉

がとても心強くみんなの気持ちを二つにしてくれました。

当時は子供も保護者も地域の皆さんもみんなで参加しみんなで楽しめる、大草野校区の素晴らしい協力体制や人柄が表れた校区運動会となりました。

地域の皆さんと一緒に子供たちを見守り育てていく環境が昔から変わらずあることを、とてもありがたくそして誇りに思いました。



## 6年ぶりの校区運動会

大草野小PTA会長 中野 暖久

## 佐賀県PTA連合会推薦 小・中学生総合保障制度(こども総合保険)について

### お子様の「ケガ」「育英費用」やお子様とご家族の「個人賠償責任」などに備えられます。

学校内はもちろん、放課後の遊戯中・クラブ活動中や休日のレジャー中の事故など様々なケガに備えられます。



オンラインから、パンフレットの確認やご加入のお手続きができます。

スマートフォンやタブレットで二次元コードを読み込むか、下記URLにアクセスしてください。  
<https://www-515.aig.co.jp/adver?sd=tvmgygin-24>



※保険商品の概要を説明したものです。詳細につきましては取扱代理店にお問い合わせください。

○制度に関するお問い合わせ先：0120-228-553 佐賀県PTA連合会保障制度事務局(取扱代理店：株式会社コーリン) 受付時間：平日午前9時～午後5時(土・日・祝日、年末年始を除く。)

○制度引受保険会社：AIG損害保険株式会社 東京海上日動火災保険株式会社 損害保険ジャパン株式会社 Chubb損害保険株式会社

【令和6年度版：S-240586 (2025-03)】